

令和7年第21回宝塚市教育委員会の会議（定例会）会議録

- 1 開催日 令和7年12月5日（金）
- 2 場 所 宝塚市役所 3B会議室
- 3 開会時間 午後4時45分
- 4 閉会時間 午後5時40分
- 5 出席した委員の氏名  
赤井 稔教育長、松浦 一枝委員、石井 克馬委員、春日井 敏之委員及び川上 泰彦委員
- 6 除斥した委員の氏名
- 7 委員及び傍聴人を除く、議場に出席した者

管理部長	高田 輝夫	教育企画課長	飯田 博
学校教育部長	藤川 明人	職員課長	河合 晋一
社会教育部長	番庄 伸雄	教育研究課副課長	前川 真宏
管理部次長	池本 和義	教育企画課係長	板垣 慎一郎
学校教育部次長	三ヶ尻 桂子	教育研究課係長	寺岡 寛史
学校教育部次長	前田 政子	教育研究課係長	植澤 健
学校教育部次長	山下 昌裕		
- 8 会議の書記  
教育企画課事務職員 中瀬 陽子
- 9 議題  
議案第26号 令和8年度（2026年度）宝塚市公立学校教職員異動方針の決定について  
議案第27号 令和8年度（2026年度）宝塚市公立幼稚園教職員異動方針の決定について  
て  
報告事項 令和7年度（2025年度）全国学力・学習状況調査「宝塚市の結果概要」の作成と配布について

会議の概要

開会 午後 4 時 45 分

**赤井教育長**

それでは、令和 7 年第 21 回宝塚市教育委員会定例会を開催いたします。  
本日、傍聴の希望者はいらっしゃいますか。

**飯田課長**

傍聴希望者はいらっしゃいません。

**赤井教育長**

本日の署名委員は松浦委員です。よろしくお願いします。  
本日の付議案件は、議決事項 2 件、議決事項以外の案件 1 件です。  
それでは、進行について事務局からお願いします。

**飯田課長**

本日の付議案件は、議決事項 2 件、議決事項以外の案件 1 件です。  
案件は、議案第 26 号 令和 8 年度（2026 年度）宝塚市公立学校教職員異動方針の決定について、議案第 27 号 令和 8 年度（2026 年度）宝塚市公立幼稚園教職員異動方針の決定について、報告事項 令和 7 年度（2025 年度）全国学力・学習状況調査「宝塚市の結果概要」の作成と配布について、です。  
審議の順番としましては、最初に報告事項、次に議案第 26 号及び議案第 27 号につきまして、一括でのご審議をお願いします。  
ご審議のほどよろしくお願いいたします。

**赤井教育長**

それでは、報告事項 令和 7 年度（2025 年度）全国学力・学習状況調査宝塚市の結果概要の作成・配布について、担当課より説明をお願いします。

**前川副課長**

令和 7 年 4 月 17 日に実施された全国学力・学習状況調査について、宝塚市の結果概要がまとまりましたのでご報告いたします。  
今年度の作成に当たっては、昨年度ご指摘いただいた内容を踏まえ、点数や平均成長率だけでなく、それぞれの評価に関する児童生徒の興味・関心、授業の理解度、基本的な生活習慣、授業改善に関する取組の状況などもバランスよく盛り込みました。  
今後の方向性などの視点に関しても、後ほど説明しますが、内容を大きく変更してまとめております。

このデータは12月下旬を目途に、宝塚市教育委員会のホームページに掲載する予定です。また、市立小・中・特別支援学校の保護者へは連絡アプリ「すぐーる」で周知し、幼稚園・小・中・特別支援学校の教職員には文書にて周知いたします。

内容についてご説明します。2ページをご覧ください。

ここでは従来通り、調査の目的を記載しています。文部科学省による本調査は、義務教育の機会均等と水準の維持向上を目的として、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握し、調査結果を今後の学校現場や教育行政の取組に活かすことが示されています。

「2. 調査の概要」では、宝塚市の状況をまとめています。調査対象は、小学校6年生（23校、1,909人）、中学校3年生（12校、1,593人）です。教科は、小学校が国語・算数・理科、中学校が国語・数学・理科で、中学校の理科については今年度CBT方式で行われました。

宝塚市の平均正答率は、いずれも全国および兵庫県の平均を上回る結果となっています。過去3年間の推移も良好で、全国平均を安定して上回っている状況です。

3ページから13ページまでは、各教科の分析を記載していますが、この部分は大きくリニューアルしました。

各教科について昨年度までは領域別の正答率のみを分析していましたが、今回は児童生徒質問調査の結果を取り上げ、各教科の興味・関心や授業の理解度など、点数では示しにくい事項を確認し、両者を踏まえた考察をまとめています。

各教科の後半（中学校理科を除く）では、本市で正答率が低かった問題を「ピックアップ問題」として取り上げ、全国や県との比較結果を掲載しました。また、国立教育政策研究所による解説の抜粋や、報告書原本へのリンクも掲載しています。

14ページと15ページも今回新たに設けた内容です。

ここでは児童生徒質問調査を8つの領域に分類し、全国と比較して本市の良かった項目には「○」、課題と思われる項目には「▲」を付して抜粋しました。15ページの文末には、小学校・中学校それぞれの傾向と今後の対策をまとめています。

最後に16ページは参考資料として、市の教育目標と指針となる「第2次宝塚市教育振興基本計画」を掲載しています。本計画は現在改定作業中のため、現行のものを掲載しております。

本市の学力は全国平均を上回る水準ですが、表現力や主体的に学ぶ力、ICT活用力の育成、協働的探究といった学びの充実が引き続きの重要課題です。

「自分を大切に 人を大切に ふるさと宝塚を大切に作る人づくり」の教育目標のもと、重点施策である魅力ある授業、ICT活用、読書推進、地域連携などを推進し、学校・家庭・地域が一体となって児童生徒の学びと生活を充実させてまいります。

以上です。

## 赤井教育長

説明ありがとうございました。

本案件につきまして、何か質問等がありますか。

#### 石井委員

14、15 ページの中で、昨年度から特活に取り組んでいる「主体的・対話的で深い学び」はそんなに無いと思いますけど、研究校や GIGA スクール構想による ICT 活用の効果について、比較・分析したものはありますか。

#### 前川副課長

ICT モデル校と他校を比較する手法も検討しましたが、対象となる児童が毎年異なるため、本資料ではあくまで市全体の傾向を取り上げることとしました。

#### 山下次長

これに関してはホームページに載る学力調査の概要ですので、このままです。今回のご指摘を受け、TGS の活用状況などについては、ホームページに載せない別添資料として提示することは可能です。

ここではあくまで、市の小学校と中学校の全体の傾向を取り上げたということです。

前回の「結果が羅列されているだけ」というご指摘を踏まえ、今回は全国と比較して高いもの、低いものを選別して掲載しています。

全てのデータを掲載することも考えましたが、課題が顕著に出ている部分を正直に出すことには勇気が必要だったという側面もあります。まずは最も良い点と最も課題である点を取り上げました。

#### 石井委員

研究校の先生方は、目に見える成果が出ているのであれば、それを確認したいはずです。

それは研究校の方で共有されるのでしょうか。

#### 山下次長

効果的な活用を促進するため、各学校へは数値を伝えています。特に TGS 校などには具体的な成果を伝えています。

#### 石井委員

成果が見えにくいことが懸念されます。

#### 山下次長

こういう取組を参考にしてもらって、各学校には学校独自の調査をしてもらいたいということが、大きい所です。

**石井委員**

学校は学校単位で、数値は知っているんですね。活用できるんですね。

**春日井委員**

全国学力調査の趣旨は、学校間の比較を煽るものではありません。学力は学校の努力だけでなく、家庭環境など様々な要素が影響するためです。

研究指定校などでの経年変化や取組の成果を、他の学校へ広めていくという活用の仕方が望ましいと考えます。

**石井委員**

年明けの研究大会までに、定量的な成果として話せるものがあれば良いのですが。第一中学校であれば英語など、学校の研究大会の報告の中で、経年変化でこのような成果が出とか、学校側でも分析してほしいと思います。

**赤井教育長**

それはこちらも学校へ伝えているんです。

夏休みの間、それに集中してくださいと。夏休み前に結果が出たので、日頃よりも十分時間が取れるはずです。先生自身も1学期の調査結果を2学期以降にどう活かすか、しっかりと分析するよう伝えています。教育研究課からも伝えてもらってます。

**前川副課長**

教育研究課の方でも、学力学習状況調査の実施要項にもあるように、調査結果の活用を各学校に求めています。その中で、今年、山下次長の方から管理職向けに“こういう分析方法がある”など、経験を踏まえて研修会でも指導を実施しています。各校の担当指導主事が困ったときには、適切に支援できるように今年は取り組んでいます。

**石井委員**

研究大会でそういう経常的なものも見れたら良いですね。一般参加もできましたよね、研究大会は。

**松浦委員**

できますね。

**赤井教育長**

市全体の話として、教科ごとの点数は全国を上回っていますが、「好きである」「得意であ

る」という回答は全国平均より低いですね。

「得意ではないが点数は高い」というこの状況をどう見たらよいでしょうか。好きになればもっと点数も上がるはずですが、現状をどう分析したらよいのか。宝塚の場合は好きになってもらう授業の仕方が必要だろうと思いますが、現状からみるとどう分析したらよいでしょうか。

#### 山下次長

分析会議での意見交換では、授業形態がいまだに講義型、一方的な指導が多いのではないかと考えています。

知識や技能は定着して点数には繋がっていますが、一方で、子どもたちの学びの興味・関心や主体性が高まるような授業展開に課題があります。そこを促進する必要があると考えています。

#### 赤井教育長

子どもたちは、「授業が楽しいか（好き・得意か）」という判断と、「授業を理解して学力を培っているか」という部分を切り分けて答えているという見方ですね。

#### 石井委員

例えば以前、宝塚第一小学校の国語の授業を参観した際は、子どもたちが自ら問いを立て、グループでディスカッションするような主体的な授業が行われていました。

予想ですが、児童は国語は好きと言っているけど、学力は低いかもしれないです。

「探究を進めると学力が下がるのではないか」という懸念もありますが、実際のところはどうかのでしょうか。

#### 山下次長

石井委員が視察された研究会は宝塚第一小学校の国語の研究会だったのですが、成績も良く、主体的に関わる力も高いという非常に良い成果が出ていました。ただ、それは子どもたちや家庭背景などの環境も要因の一つとして考えられます。

#### 赤井教育長

「得意・好き」と答えている子どもの点数と、そうでない子どもの点数を分析することは可能ですか。顕著な例が出るのではないかと思うのですが。

#### 山下次長

数値を取ることは可能です。

### 植澤係長

今回、学校によって「好きで得意で点数も高い」という上位の学校がある一方で、点数は取れているが中身を分析すると「探究的な問題」や「記述式問題」で苦戦している状況も見受けられます。

全国より正答率は高いものの、回答率自体は低い問題もありますので、そこをカバーするためにも探究的な学びは必要であると感じています。

### 赤井教育長

報告書を拝見し、点数の高さと「好き」という意識の低さの関係性に非常に興味を持ちました。

### 川上委員

出てきたスコアに対して子どもたちの説明をすとかそういう動きはやや弱いなと思いました。15 ページあたりを見ると、探究学習を推進したい理由がよく分かります。

厳しい言い方をすれば、受け身でよく覚えているが、主体性には課題があるということでしょう。高校などでも「探究に力を入れると進学実績が落ちる」という懸念がよく出ますが、そこをどう克服していくかが課題ですね。

### 春日井委員

小学校のうちは教師主導の授業で、基礎・基本をしっかり教えてもらい、それを生徒が一生懸命受けて一定の点数が出ている状況かと思います。

しかし中学校になると、「学ぶことが楽しみ」ではなく「苦」になっている傾向が見られます。全国平均との落差が大きくなるのも中学校です。

14、15 ページの結果にもある通り、自分で考えて文字にして発信するような力や、社会との繋がりを意識する視点が、中学生においては特に弱いのではないかと危惧しています。授業が面白いものになっているか、意識して対応すべき課題だと感じます。

ICTの活用項目については宝塚市独自の課題があるとしても、ここだけの問題ではなくて次の2つの項目の「▲」、全国と比べて二桁の開きがある部分は、意識して対応しないといけないかなと思います。とりわけ中学校が気になります。

### 石井委員

春日井委員の仰った、14 ページの下部、中学3年生の「地域や社会を良くするために何かしてみたいか」という項目国との比較「-4.3」ですが、数値自体は昨年度より上がっているんじゃないですか。以前、もっと悪かったと思います。

### 松浦委員

昨年より良くなっていますね。

**植澤係長**

中学 3 年生が、昨年が 86.4 なので上がっているのですが、小学校 5 年生が昨年が 82.9 なので、横ばいのような、あまり上下がない状態で推移しています。

**石井委員**

昨年の 3 年生と 5 年生は今回の調査対象とは違う子どもたちなので、市としては定点観察で記載しても良いのではないのでしょうか。

**山下次長**

児童生徒質問調査と言いまして、14 ページの上ですが、令和 6 年度からこういう項目になっています。令和 5 年度まで「児童生徒質問紙調査」という調査名称に「紙」という文字がありましたが、紙での調査ではなく、令和 6 年度から調査方式が CBT（パソコン回答）に変わり、質問内容も大幅に修正・差し替えが行われているため、単純な前年比較には注意が必要です。

**石井委員**

質問の文言が変わったりしている可能性がある、ということですね。

**赤井教育長**

前年比較くらいだったら、条件が同じなら資料は作成できそうですか。

**植澤係長**

14、15 ページに関しましては令和 6 年度は「読書は好きですか」はなかったのですが、その前の令和 5 年度はありました。質問によれば、2 つの項目が融合されて出ているというものもあります。

**赤井教育長**

前年比較ができるものと、できないものがあるのですね。

分かりました。

他に質問等がありますか。よろしいでしょうか。

**委員**

(なし)

## 赤井教育長

それでは、本案件についてはこれまでとさせていただきます。

続いて、議案の審議に戻ります。

議案第26号 令和8年度(2026年度)宝塚市公立学校教職員異動方針の決定について及び議案第27号 令和8年度(2026年度)宝塚市公立幼稚園教職員異動方針の決定についてを議題といたします。担当課より一括して説明をお願いします。

## 河合課長

それでは、議案第26号 令和8年度(2026年度)宝塚市公立学校教職員異動方針の決定について及び議案第27号 令和8年度(2026年度)宝塚市公立幼稚園教職員異動方針の決定についての提案理由をご説明申し上げます。

本件は、令和8年4月1日に行う公立学校及び公立幼稚園の教職員に係る異動について、その方針を決定しようとするものです。

公立学校においては学習指導要領に基づき、また公立幼稚園においても幼稚園教育要領に基づき、それぞれ教育課程が実施されています。

学習指導要領や幼稚園教育要領では、それぞれの発達段階に応じて、子どもたちの「生きる力」を育むことを基本的な考え方としており、その狙いを実現させるためには、学校・幼稚園において創意工夫による教育課程の実施と、開かれた特色ある学校・幼稚園づくりのより一層の推進が重要です。

これらの観点を踏まえて、令和8年度の異動方針としては、全市的視野に立ち、公正かつ適切な人事異動を行うものとし、清新明朗な気運の醸成に努め、もって学校・幼稚園運営の活性化を図ろうとするものです。

具体的には、議案の1ページをご覧ください。前提として、昨年度の異動方針と大きな変更はございません。かいつまんで説明しますと、まず項目2の具体的方針について、(1)では、異動の対象となるものについては、現任3年以上在勤したものを対象としています。ただし、(3)にあるように、休職中、療養中、派遣中、産前産後休暇中、育児休業中のものについては、原則として異動は行わないものとさせていただきます。

2ページをご覧ください。項目3に異動に当たって考慮する点がございます。少し飛びますが、(3)「配置換」の項目イの中を見てください。これも例年のものと変わりはありませんが、管理職以外のものにつきましては、人事異動希望等を聴取し、経験年数や年齢構成、男女比等を考慮して計画的に人事異動を行いたいと思っています。

次に3ページをご覧ください。併せて、公立幼稚園教職員異動方針でございますが、項目2の具体的方針を見ていただきたいと思います。こちらの(2)では、先ほどの学校の異動方針と同じように、長期療養中のもの、休職中のもの、産前産後休暇中のもの、育児休業中のもの等は原則として配置換を行わないということで、同様の方針を定めています。(3)では、特に年数等の記載はありませんが、同一園における長期勤務者及び新規採用者について、

積極的に異動を進めることを方針に掲げています。

4 ページ以降は、兵庫県が定めている公立学校の教職員人事異動方針になりまして、こちらの県の方針に基づいて、市で方針を定めることになっておりますので、参考につけています。こちらも県の異動方針、特に昨年度と大きな変わりはありません。

6 ページ以降に、今回の異動方針にかかる参考資料を添付しています。一番上、県教職員の年齢構成では、平均年齢は全体で 38.7 歳ということで、引き続き平均的には若い教員が多いことが見て取れるかと思えます。それぞれ中学校や男女比別という形で資料を載せておりますので、参考にしていただければと思います。

7 ページをご覧ください。真ん中に、教諭の平均年齢推移というものも用意させていただいております。こちら、これから先、どんどん平均年齢が上がってきております。これについては、主な要因として今現在申し上げたとおり、平均年齢 39 歳くらいということで、かなりボトムとなる年齢層に若い教員が多くなっています。そこが定年退職を迎えるまで、一番多い年齢構成のところが年々年を重ねていきますので、比例して、平均年齢も上がってしまうということが一つです。あと、定年延長というところで、高齢な現役世代がある程度増えてくるということも、一つの要因かと思えます。あともう一つが、新規採用者についても、やはり最近、即戦力というところで、現職の比較的年齢が 20 代後半から 30 代前半ぐらいの新規採用者が増えてきておりますので、そちらも平均年齢を押し上げている要因になっているかと思えます。

次に 8 ページをご覧ください。こちらは教員の学校の在籍年数になっていきます。10 年以上同じ学校に在勤しているものについて、一番積極的に異動対象としていく予定です。令和 8 年 3 月 31 日現在で 10 年以上になるものが全体で 26 名、全体の割合としては 3.2%です。ちなみにこの数字には育休や長期休業者なども含まれています。参考として、昨年度末の時には 20 名おり、全体の割合として 2.5%であったということで、例年並みと考えております。表の真ん中あたりで、6 年以上 10 年未満という欄がございます。異動方針については 3 年以上を異動対象とはしていますが、6 年以上経つものについては積極的に異動、10 年超えたものは基本異動という形で、今回の議決事項にはありませんが、異動の実施要領には、そのように定めています。6 年以上のものは積極的に異動させるよう、ここに示しています。全体で、今年度末 165 名で、全体に占める割合は 20%です。こちらについては、昨年度は総合計で 159 名、全体の割合として 19.6%ということで、少し増えてしまっており、今年度末、積極的に異動を進めていきたいと考えています。

9 ページ以降は、幼稚園の人事異動関係ということで、昨年度末の異動の状況であるとか、あと、年齢別の人数です。こちらは、幼稚園の教員についてはかなり若い世代が多いのがこれで見とれるかと思えます。あと経験年数別人数です。

最後、10 ページには、年度別の職員数の推移として、廃園や園児数の減少に応じて、どんどん職員数が減っていつているのがこの推移でわかるかと思えます。最後の項目 9 には、在園年数別人数ということで、一つの園での在籍年数が非常に長い教員はいないことがこ

れで見えるかと思えます。参考に以上の資料をつけています。

説明は以上となります。よろしくお願ひします。

**赤井教育長**

説明ありがとうございました。

議案第26号、27号について質問等がありますか。

**石井委員**

2ページの「特別支援教育」の項目で、「特別支援の免許を持っていない先生もいらっしやる」という風に読み取れますが、実情はどうなっていますか。

**河合課長**

基本的には特別支援の免許を持っている方ということになります。

ですが、管理職は特別支援の免許は必要ありません。

**石井委員**

なるほど、そうですか。

先ほどの説明で、10年以上の在籍者が26名、そのうち休職・療養中が12名とのことでしたが、昨年度の病気休職者の総数などは分かりますか。

**河合課長**

長期休業者の全体で12名なので、内容を確認する必要があります。分かればまた報告します。

**石井委員**

もし分かれば、全体の中での長期休業者も。

**河合課長**

令和6年度の数字なら分かります。

休職者の総数は43名です。内訳は、一般傷病等が15名となっています。28名が病気（精神疾患等）で休まれている、合わせて43名となります。

**石井委員**

そんなに変わっていないですね。

**河合課長**

産育休であったりが含まれるので、そこまで例年の数値の変化はないですね。

**石井委員**

長期療養休暇の方は、復帰してすぐに担任になる可能性はあるのでしょうか。来年度に担任になることはあるのでしょうか。

**河合課長**

それは復帰されたという前提ですね。

精神の場合は、復帰されるタイミングが分かりません。

基本的には復帰された時、年度末であった場合は既に来年度の担任は決まっているので、担任になることはないですね。

年度途中で復職された場合は、すでに担任が決まっているため、すぐに担任になることは基本的にありません。本人の状況を見て、管理職が判断します。

**石井委員**

よく「担任がない」という状況を耳にすることがありますが、実態はどうですか。

**河合課長**

現在は、担任は配置できていますが、正規教員ではなく臨時講師が担任を代行しているケースはあります。担任としては配置できています。講師の登録者が減っており、人繰りには非常に苦勞しているのが実情です。

**石井委員**

担任がないという状況は、今はないのですね。

一昨年は20名でしたか、足りない正規職員が。それが今年は8名ですか。

**春日井委員**

兵庫県全体で定員未充足（欠員）が200名以上出ているとの報道がありましたが、本市においては、欠員はいかがですか。今仰った8名ですか。

**河合課長**

8名は春先のことなので、そこから急に休まれたり、産休や育休に入られたらまた変わります。

本市では、すぐに代替が見つからないケースを含めても欠員は一桁台で推移しています。1ヶ月程度の短期の休みであれば、代わりの講師を見つけるのが難しい時期もあります。

**川上委員**

人が足りなくなった場合の充足は、基本的には市教育委員会でされているのでしょうか。

**河合課長**

そうです。

**川上委員**

分かりました。

確認ですが、1ページで具体的な方針で現任3年以上勤務というのだけ記載があって、標準とか上限とかないのかと思ったのですが、先ほどの説明では要領の方で6年、10年というのが定められているということですね。

**河合課長**

はい。要領では6年以上が積極的異動、10年以上が異動ということを決めています。

**川上委員**

分かりました。

異動方針における在籍年数ですが、平均的には何年くらいで異動されるのでしょうか。

**河合課長**

基本的には6年を一つの目安としておりますが、ただ学校の事情で担任を10年近く担っている方もいらっしゃるって、そこは一概には言えないです。

**川上委員**

あまり職場である学校環境を良く思わない場合は、3年経ってやっと異動願いが出せるということですが、平均の在籍年数により学校間にバラつきがないか、何か把握されていますか。

**河合課長**

データを確認すれば把握できると思いますが、学校に偏りがないように調整はしています。特に中学校では学校間のバランス（年齢構成や科目の偏り）を見ながら、市内の3ブロックを回るように人事を行っています。

**川上委員**

平均在籍年数が短くなりがちな学校は、何か手当てが必要な学校だと思いますので、子どもたちの状況や学力の状況とは別に、先生方が長く居たい学校かどうか調査は支援策とし

て必要だと思います。先生たちが「長く勤めたい」と思える環境かどうかの指標にもなると思います。

**河合課長**

校長へのヒアリング等を通じて状況を把握して、人事を行っています。

**川上委員**

分かりました。

それから、先ほどの石井委員の質問にもありましたが、特別支援教育の免許取得者は現状100%ですか。管理職を除いて。

**河合課長**

休まれている先生もいらっしゃいますが、100%です。

**川上委員**

なるほど、分かりました。

**春日井委員**

いじめの事案でも保護者から指摘がありましたが、10年以上の長期在籍する先生がおられて、学校長も気を遣われる状況で、そこを適正化していく必要があるのではないかと思います。10年以上在籍する方というのは、減少しているということでしょうか。

**河合課長**

一応、減少しています。0件にはしたいのですが。ただ育休中という方もいまして、2人目3人目と育休を取られる方も10年以上在籍に含まれていますので、そういう方を除いて0件にするよう努力しています。

**春日井委員**

なるほど、分かりました。

あと逆に、学校の環境がしんどいので異動希望者が多いというのと合わせて、リスクマネジメントの観点から、一定の期間で異動させざるをえないケースもあるように思うのですが、人間関係などの理由で早めに異動させるケースはありますか。

つまり、担任も持てない、保護者とも上手くいかない、同僚とも上手くいかない配慮を要する先生はいらっしゃいますか。

**河合課長**

1 年ごとに異動するケースもあります。

**春日井委員**

そこは苦勞されているんじゃないかなと思いました。

**赤井教育長**

他、よろしいでしょうか。

**委員**

(はい)

**赤井教育長**

そうしましたら、無いようですので、議案第 26 号 令和 8 年度（2026 年度）公立学校教職員異動方針の決定及び議案第 27 号 令和 8 年度（2026 年度）宝塚市公立幼稚園教職員異動方針の決定については、原案の通り可決でよろしいでしょうか。

**委員**

(承認)

**赤井教育長**

ありがとうございます。

それでは、この件以外に、本日予定の案件はございますか。

**飯田課長**

ございません。

**赤井教育長**

それでは、本日の教育委員会の会議を閉会いたします。

どうもありがとうございました。

---

閉会 午後 5 時 40 分

---